

「特集」

倫理的課題への アプローチ

「倫理的」な看護はいかに実践できるか

本人の希望や家族の願い、医学的適応、さらには自分の看護観——。
考慮すべきことが重層的に、
複雑に絡み合っているのが訪問看護の現場です。

だからこそ、そこには「倫理的課題」が生じます。
現場の実践者には、それがいかに霧がかった悩ましい状況であったとしても、
目を凝らし、一步を踏み出すことが求められます。

さまざまな思いや考え、情報をどのように受け止め、
整理し、考えていくとよいのでしょうか。

本特集では、立ち止まり、
再び歩み出すためのヒントを探ります。

特集監修 ● 鶴若麻理（聖路加国際大学 生命倫理学・看護倫理学）

